

## 韓国側の批判に対する反論について

H23. 7. 2 事務局

2月に開催された第6回研究会において、第1期研究会の最終報告書や外務省パンフレット「竹島問題を理解するための10のポイント」など、日本側の主張に対する韓国側の批判については、しっかりと反論を加えるとの方向性が取りまとめられた。

現在のところ、反論の対象としては次の4点が考えられる。

今回、これらについてどのように反論していくのか具体的に協議する必要がある。

### 1. 第1期竹島問題研究会「最終報告書」への批判

- ・ 韓国嶺南大学校独島研究所「独島研究叢書3」に、本研究会の最終報告書批判が特集として掲載

【資料】 特集『竹島問題に関する調査研究 最終報告書』批判（目次）

### 2. 保坂祐二氏『大韓民国 独島』

- ・ 世宗大学の保坂教授が、H22. 9月、発行した書籍
- ・ 中央日報日本語版（H22. 9. 18）によると、大韓帝国勅令41条での「石島（ソクド）」の解釈やラスク書簡の無効性などを立証したとしている

【資料】 保坂祐二『大韓民国 独島』（第1章 独島と「大韓帝国勅令第41号」）

### 3. 日本が知らない10の独島の真実

- ・ 韓国の東北アジア歴史財団が、日本外務省が平成21(2009)年2月に発行した竹島広報パンフレット「竹島問題を理解するための10のポイント」の批判を内容とする「日本が知らない10の独島の真実」をネット上に公開
- ・ この批判に対して、下條座長の反論レポート「韓国が知らない10の独島の虚偽」を10回に分けて掲載予定
- ・ なお、第1回(23. 6. 2)、第2回(23. 6. 20)は掲載済

【資料】 第1回 「日本は古くから竹島の存在を認識していました。」の正当性  
第2回 「韓国が古くから竹島を認識していたという根拠はありません。」の正当性

### 4. 独島守護隊代表・金点劬氏からの手紙

- ・ H18. 11月、下條座長を含む竹島問題研究会委員が韓国内で韓国側研究者と公開討論を実施。その際、金氏も公開討論に参加
- ・ H23. 2. 22、金氏から下條座長に対し、島根県内での公開討論の開催を呼び掛ける手紙が渡される

【資料】 H23. 2. 23 山陰中央新報社の記事  
独島守護隊代表・金点劬氏からの手紙（翻訳）